

## 名誉教授山田九朗年譜

明治三五年（一九〇二年）

二月五日 福岡県若松町（現在北九州市若松区）に生れる。

大正三年（一九一四年）

四月 香川県立高松中学校に入学する。

大正八年（一九一九年）

三月 香川県立高松中学校を卒業。

大正九年（一九二〇年）

九月 京都第三高等学校文科丙類に入学。

大正十二年（一九二三年）

三月 京都第三高等学校文科丙類を卒業。

四月 東京帝国大学文学部フランス文学科に入学。

大正十五年（一九二六年）

三月 東京帝国大学文学部フランス文学科を卒業。

四月 一年志願兵として入隊。昭和二年一月に及ぶ。

昭和二年（一九二七年）

四月 立教大学教授（フランス語）に任ぜられ、昭和二年三月に及ぶ。同時に暁星中学校講師（フランス語）を兼ね、昭和四年三月に及ぶ。

昭和三年（一九二八年）

秋 岩永マサと結婚。五女あり、昭和二〇年（一九四五年）四女を高松にて空爆のため失う（五歳）。昭和二六年（一九五一年）長女病没（二十歳）。

昭和四年（一九二九年）

四月 東京商科大学予科講師（フランス語）に任ぜらる。

論文「フランス十八世紀の小説物語」（『新潮社世界文学講座』）を发表。

昭和七年（一九三二年）

二月 上海事変応召。同三月まで。

論文「フロロベル、人と作品」（『岩波講座・世界文学』）を发表。

昭和八年（一九三三年）

四月 東京商科大学予科教授に任ぜらる。

昭和一〇年（一九三五年）

翻訳フロロベール『感情教育』、『フロオベール全集』第二、第三卷、改造社)を發表。

昭和十一年(一九三六年)

『フロロベール年譜』、『フロベール全集』第九卷、改造社)を發表。

昭和十二年(一九三七年)

二月 東京商科大学学生主事兼東京商科大学予科教授に任ぜらる。昭和十四年三月に及ぶ。

昭和十四年(一九三九年)

三月 東京商科大学予科教授兼同大学本科講師(フランス文学)に任ぜらる。昭和二十四年六月に及ぶ。  
七月―八月 満州国視察。

昭和十五年(一九四〇年)

四月 第一高等学校講師(フランス語)を嘱託せらる。昭和十六年三月に及ぶ。

翻訳フロロベール『三つの物語』(岩波書店)を發表。

昭和十七年(一九四二年)

三月 支那事変応召、即日帰郷。

昭和十九年(一九四四年)

七月 応召。中華民国福建省に出征。

昭和二十一年(一九四六年)

二月 帰国復員。

昭和二十四年（一九四九年）

四月 東京女子大学講師（フランス語）を嘱託せらる。

六月 一橋大学教授（社会学部、文学）に任ぜらる。

昭和二十七年（一九五二年）

四月 津田塾大学講師（フランス語）を嘱託せらる。昭和三十九年三月に及ぶ。

昭和二十八年（一九五三年）

四月 一橋大学大学院研究科担当を命ぜらる。

昭和二十九年（一九五四年）

翻訳ラルナク『現代フランス文学』（岩波書店）を発表。

昭和三十年（一九五五年）

日本フランス語学会の共同研究に基づく「フランス語学文庫」の編集委員長となる。昭和三十七年に及ぶ。

五月 フランス国視察訪問。

昭和三十一年（一九五六年）

四月 帰国。

昭和三十三年（一九五七年）

四月 一橋大学大学院学務委員を命ぜらる。昭和三四年三月に及ぶ。  
十月 日本フランス語フランス文学会評議員となる。昭和四〇年三月に及ぶ。

昭和三四年（一九五九年）

四月 一橋大学大学院学務委員に再選さる。昭和三六年三月に及ぶ。

昭和三五年（一九六〇年）

翻訳バルザック「フェラギュス」(『バルザック全集』第七卷『十三人組物語』、東京創元社)を發表。

昭和三七年（一九六二年）

講話「ヨーロッパ社会と文学——フランス文学をたどって」(一橋大学・学術講座)、『ヨーロッパ社会と文学』(春秋社)に収録。

昭和三九年（一九六四年）

四月 青山学院大学文学部フランス文学科講師を嘱託せらる。

昭和四〇年（一九六五年）

三月 一橋大学教授規定により定年退職。

四月 一橋大学名譽教授の称号を受く。

青山学院大学文学部フランス文学科教授に任ぜられ、現在に至る。